

グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いた受傷選手の心理変化プロセスの検討

A consideration on the psychological process of injured athletes by the Grounded Theory Approach

1K03A017-9

泉 清彦

指導教員 主査 内田 直 先生

副査 中村 千秋 先生

I. 【緒言】

現在、スポーツ現場においてアスレティックトレーナーの役割が重要視されている中で、受傷選手の心理的ストレスに対する心理サポートの有効性が研究されている。また、受傷選手の心理適応過程について、様々な個人的および状況的要因が影響を及ぼすとされていることから、医療機関での心理的介入として、認知評価モデルの有用性が指摘されている。

II. 【目的】

本研究では、スポーツ選手の受傷から復帰に至るまでの心理プロセスの特徴を明らかにし概念モデルの作成を目的とする。さらに、実際に現場で受傷選手と接するトレーナーの、受傷選手とのより良い関わり方を提案することを目的とする。

III. 【調査方法】

(a) 対象：早稲田大学体育会各部より 5 名の現役競技選手。競技種目、又、受傷部位に関わらず、大学在学中に急性期の怪我を負った選手で、競技復帰までに医師の診察・通院（1 回以上）・リハビリテーションが必要な重度の損傷を受けた者。本研究では、調査者の研究趣旨に賛同してくれた各部所属トレーナーを通じて、了承が得られた方々のみに連絡を取り、最終的に 5 名に面接調査を実施した。(b) 調査期間：2006 年 10 月初旬から 11 月下旬。(c) 調査形式：1 対 1 の半構造化面接。

(d) 面接時間：53 分～1 時間 51 分、平均 1 時間 23 分。(e) 調査に用いた機器：ボイスレコーダー (Olympus Voice Trek V-50)。

IV. 【分析方法】

本研究では、特に、医療、看護、福祉といったヒューマンサービスの領域での実践的応用を視野に入れた方法論である「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ (Modified Grounded

Theory Approach)」(木下)を用いて逐語化したデータの分析を行った。

V. 【結果】

本研究で生成された理論の枠組みは以下の通りである。(a) 28 の概念と 9 つの〈カテゴリー〉、(b) 2 つの側面：《ポジティブな側面》、《ネガティブな側面》、(c) 心理プロセスとして 2 つの段階：【揺れ動く心理の混在】、【予後】である。

受傷後の受傷者の心理変化プロセスを結果図として、また概念とカテゴリーなどを簡潔に文章化したストーリーラインを作成した。

VI. 【考察】

スポーツ選手にとって怪我は避けては通れないものである。起きてしまった怪我に対して治療することは可能だが、無かったことにはならない、そこには失ってしまった時間が存在するからである。そこで、どのようにして怪我に対する意味づけをプラスなものにもっていくかが、その失った時間を埋め合わせることができる唯一の方法であると考えられる。つまり、いかにして怪我によって得たものを実感できるかがポイントとなる。その分かれ道において、トレーナーが介入できると思われるポイントをまとめた下記表参照。

- ・自らの立場と役割の説明を行なう。
- ・できるだけ早い時期に、現状と今後の展開を分かりやすい言葉で正確に、また正直に説明する。
- ・やる気を持ってリハビリテーションに励むことの重要性を説明する。
- ・小さな変化を見逃さず、その成果を認め褒める。
- ・新しいトレーニングを積極的に紹介し、マンネリ化を防ぐ。
- ・一緒に診断を聞き、医者に受傷者の代わりに状況説明を行う。
- ・どんな些細な相談にも誠実に対応する。
- ・状況がどんなに困難であっても最善を尽くす。
- ・トレーナーの限界を認識し、その上で自らの役割の範囲内で最大の努力と説明責任を果たす。